

令和 8 年度第 3 回中井町生涯学習施設建設等検討委員会 議事録

日時:令和 8 年 7 月 29 日(水)15 時 00 分～17 時 00 分
場所:中井町役場 3 階 3A 会議室

■出席者

委員:16 名 (欠席:海野美和委員、石河勇委員、多田勲委員)
幹事:3 名 (欠席:市川まち整備課長)
事務局:生涯学習課長、主幹兼班長、主査

■傍聴者

10 名

1. 開会

司会(生涯学習課)より事務連絡

事務局で会議内容を撮影、録音する旨を説明。

傍聴者数、傍聴時の注意事項などを説明。

- ・私語、委員の発言に対する拍手やその他の方法での可否の表明の禁止
- ・撮影、録音の禁止
- ・会議終了後、配布資料の返却

議会より選出されていた関野達夫委員に代わり、岸光男委員に変更となった旨の報告。岸委員より自己紹介をいただいた。

2. 委員長あいさつ

皆さんこんにちは、今日もよろしくお願いいたします。本日が 3 回目となります。ちなみにこの委員会は全 6 回です、今日が半分ということになりますのでよろしくお願いいたします。今回、次回におきましては、生涯学習施設の整備に向けて町よりパターンをいただきました。後程説明があると思いますが、資料 2 に基づきまして実現可能な方法、可能性について委員会で議論していきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。今回も活発なご議論いただきたいと思います。

※以降、議事進行は牧瀬委員長

3. 前回の振り返り

事務局より説明。

■第 2 回委員会の概要

- ・ 6 月 15 日に開催された第 2 回委員会の議事録を資料と併せて町のホームページに掲載した。

■議題の内容

- ・ 議題 1:新たな生涯学習施設の事業概要(補足)について、まず初めに、3D モデルの動画を皆さんに見ていただいてイメージの共有を図った。役場周辺がなぜ建設計画地なのか、また浸水想定区域への対策、既存施設、近隣自治体、同規模他団体との比較資料の共有を行った。
- ・ 議題 2:新たな生涯学習施設の財源構成について、事業費、財源内訳について説明。財源の中でも、国庫補助金や基金、地方債の考え方等について共有を行った。
- ・ 議題 3:今後の方向性検討について、第 3 回目の検討委員会から今後の方向性の検討に移行していく旨を説明。事務局よりいくつかの選択肢を提示し、それをベースに協議を進めていくとした。町が考える検討にあたっての留意点として、財源確保、防災拠点形成と広場整備、駐車場の必要性、改善センターと公用車駐車場の跡地問題、バスターミナル整備の必要性、建設コストの高騰、補助金獲得見込み、財政の影響などを挙げた。
- ・ 意見シートで委員より提出があった意見について共有を行った。

(委員長)

ありがとうございました。様々な意見が出たことはわかったと思います。今、事務局から振り返りで説明していただきましたが、町の公共施設全体の現状の更新の考え方につきまして、担当課がいらっしゃっていますので簡単に説明いただきたいと思います。議論を整理しておきたいのですが、今回こちらの委員会につきましては、中井町生涯学習施設建設等がメインになります。公共施設全体ではありませんので注意していただきたいと思います。前回の議事録を見ても公共施設全般に入っているのですが、あくまでこの生涯学習施設の議論がこの委員会でありますので、そこは注意していただきたいと思います。それを理解していただいた上で中井町全体の公共施設について担当課の方から説明いただきたいと思います。それではよろしくお願いいたします。

■公共施設総合管理計画について(総務課より説明)

資料 1 に基づき公共施設総合管理計画の概要について説明。

- ・ 公共施設の老朽化や人口減少・高齢化への対応が重要な課題と認識されている。
- ・ 持続可能な公共サービス提供のために本計画が策定された。
- ・ 現在、28 施設 46 棟の公共施設があり、そのうち 77%が築 30 年以上の老朽施設。
- ・ 人口減少や少子高齢化を見据え、更新ペースの維持が難しい状況。
- ・ 基本方針として、サービスの継続性を重視し、維持管理・更新費用を全体で 22%削減する目標を設定している。
- ・ 施設類型ごとに管理方針を定めており、行政系施設は機能充実、町民文化系施設は長寿命化など、対応を検討。
- ・ 学校教育系施設は適正規模の検討が進行中。
- ・ インフラ施設についても長寿命化と予防保全型管理を行う。
- ・ 計画の進捗管理と 5 年ごとの見直しを予定。

(委員長)

ありがとうございました。中井町の公共施設全般については、計画を作って進めていることがわかったと思います。せっかくですのでこちらにつきまして、質問或いはコメントがあればいただきたいと思います、どうでしょうか。

(委員 A)

前回、私の方で発言させていただいて、こういう一覧を作ってくださいというお話をしましたが、ちょっと概要すぎてよく分からない、これが実態です。その中で、前回、前々回 2 回の委員会を経て、私なりに判断・理解させていただき、議事録から読み取れる部分で、町民の皆さん、参加されている皆さんもそうでない方もいらっしゃいますが、ご不安に思っている部分が多々ある、これを 5 つに集約してみました。

1 つは財源、これが地方債の負担とか物価高騰の状況でどうなるかという部分です。

それから、既存施設の老朽化等の優先順位、これがわからない。先ほどお話しましたように単体で個別に計画してある、ないしは長寿命化をしていると言いますが、この計画との関係性がさっぱりわからない。そういったところで、この優先順位になぜこの生涯学習センターが一番が上がってくるのか。ないしは他のやり方で長寿命化を図りながら他の方策はとれないのかということも、参加されている皆さんのご不安な点ではないかと思います。

それから学校のあり方、ここについては早急に町民の皆さんが声高く、早く方向性を決めていかなければいけないという問題認識を持っているところを、私は強く認識させていただきました。

それから比奈窪 56 プラン、こちらとの関係性が今ひとつまだよくわからない。なぜこれが急に出てきたのかという説明がないと委員の皆さんも納得感が得られないのではないかと。できれば得心が得られるところまで議論を進めていただければと思います。

それから町民への説明不足、相変わらず、この委員会での意見を踏まえて方向を決めようとしていますが、やはりポータルサイト等を用いて、町民の意見を幅広く常に聞く。その声はどう回答していくのかを町民の方に見せていく、こういった双方向のコミュニケーションが必要ではないかと思います。

それで、今ご説明いただいた件ですが、生涯学習センターは単体で判断するべきではないと理解します。町全体の公共施設の更新計画の中で位置づけるべきものだと私は考えております。そのために町の投資戦略、古い建物が 20 幾つあるというお話をいただきましたが、ただこれがこうなっています、ありますというだけで、ほ

とんどが皆老朽化に至っていますという説明だけでは、投資戦略にはならない。

それから、この中での優先順位づけ、既存施設の維持費、老朽化状況を一覧で再度示していただきたい。これがないと、全体感での判断ができかねます。私はそのように理解していきまして、その辺で1つ得心を得たいと考えます。それから町民の理解を得るためにも、何回かの会議でお話しましたがポータルサイト、これを大いに活用していただきたいと考えます。

これが今出していただいた計画への私のコメントです。ないしは委員会の正式な意見として採用していただけるのであれば、これを踏まえて、今言ったような表を再度作って、委員会の皆さんに諮っていただきたい。こういうお願いがあります。

(委員長)

はい、ありがとうございます。今の件につきまして担当課の方でもし答える部分があれば答えていただければと思います。特に5点出まして、1点目の財源と3点目の学校のあり方につきましては、多分公共施設全般の話かなと思いますので、わかる範囲で構いませんのでお答えは可能ですかね。

(総務課長)

現時点でということ。はい。

(委員A)

すみません。委員長いいですか。私だけ時間をとっても申し訳ないので。それは次回でも結構ですが、要するにそれを見て判断できる材料をさらに用意していただきたい。それがないと得心に至るまで、方向性を固めるまで、これ1委員としての結論が出ませんので、そこはぜひともよろしくお願いします。

(総務課長)

現時点でお答えできるところはお答えしたいと思います。優先順位については多分皆さん気になったところかと思っています。この計画自体に優先順位、1番が何々、2番が何々というようなものを書いてあることはございません。

ただ、この考え方は先ほどお話ししました長寿命化する考え方に沿って計画がなっておりますので、建物それぞれが木造であったり、鉄骨造であったりコンクリート造であったりとか、その建物に応じた耐用年数がございしますが、その耐用年数をもって、なおかつ長寿命化をしようというコンセプトですので、それぞれの耐用年数で建て替えをしないで、維持補修をしながら、長寿命化後20年、25年維持しようというのがこの計画となっておりますので、その旨、建築年月日から基づいた数字というものは出ておりますし、また、この総合管理計画につきましてはホームページで当初から公表されているもので、一般の方もすべて見る状態となっております、そこだけお話をさせていただきました。

(委員A)

委員長すみません。たびたび水を差すようで申し訳ないですが、個別の修繕費がどのくらいかかるか表で見せていただくことはできますか。

(総務課長)

その点につきまして、今年度幾らで、9年度何千万でというような細かな数字はこの計画の中では出ていません。急に来年、庁舎で1億円の修繕工事を必ずやらなければ成り立たないというようなことがあれば、早急にはやらなくてはいけないものですので、その計画自体が大分ずれてくる話になります。この計画自体に基づいてその計算の仕方については、国で定めたものがございしますので、その耐用年数等を勘案した数字に基づいた数字で計算をさせていただいて公表しています。単純にこの計画が正しく何億円という数字が、そのように推移するという計画ですので、正確にその通りいくのではないところはご理解いただきたいと思います。

(委員A)

ちょっと申し訳ないですが、そこはそれで理解しております。ただ概算ベースで決めていかないと、ないしは我々が数字で把握していかないと、この改善センターを作るのに幾らという部分との平仄ひょうそくや比較が出ませんので、きっちりと正しい数字を出してくださいと言っているわけではないです。なおかつ財務計画で作っていただく

際に、今後、20 年ないしは 30 年人口動態等々の予測も含めて、この施設をどう利用していくのか、利用率も予測で出さざるをえないことになりますよね。そういったところもあって概要、概算で結構ですので、出してくださいというお願いをしないと比較ができない。そうすると、ただ心情的にいいのか悪いのかって、それを判断しろというような委員会になってしまうリスクがあるので、そこは避けたいということでございます。

(委員長)

今概算ということですが、繰り返しになりますが今回こちらの委員会につきましてはあくまでも生涯学習施設等の整備ですので、こちらについてしっかり議論していきたいなと思います。今の委員の話ですと公共施設全般になってしまいますので、対象ではないかと。場合によっては別の委員会を立ち上げてもらって、そこで議論するのが筋かと思います。最初に諮問書をコピーしてもらっていると思いますが、その諮問事項について、あくまでこちらの委員会につきましては、生涯学習施設等の整備に関することになりますので、確かに委員の言うこととすぐわかりますが、今回はこちらに特化してやっていきたいなと思います。

(委員 A)

再度、委員長すみません。水を差すようですけども、町の魅力づくり、これは最初に委員長と議論させていただいた部分ですが、見方が大分違うかなという部分ですが、私は町の魅力づくりは施設単体で考えるべきではない、総合戦略で考えるべきです。そういうことであれば、そういう意見もあって、これを踏まえて別の検討委員会を立ち上げてください。町の魅力がなにでも結構ですし、その一環でこれを考えていくという方策もありますので、その声出しだけはさせていただきます。

(委員長)

はい。ありがとうございます。私もそう思っています。例えば附帯意見が中に入ればいいかなと思っています。最終答申を出しますが、答申書の附帯意見として、この魅力づくりに関しての委員会を立ち上げてもらいたい、或いは公共施設全般の検討について立ち上げてもらいたいとかもありかと思っています。これは全然否定はしていませんので、その通りだと思います。

(委員 A)

ではよろしくお願いします。

(委員長)

あとすみません。あと 4 点目ですね、比奈窪 56 プランがなぜ出てきたかがわからないとありましたので、もし担当課の説明ができればと思います。どうでしょう。

(事務局)

比奈窪 56 の関係性が唐突に出てきて分からないという質問の趣旨かなと思います。

もともと公共施設総合管理計画等で改善センターについては建て替えの方針ということで、そちらについては生涯学習施設という形、生涯学習センターという形で建設を図っていくと。

それからもう 1 つの観点としましては、都市マスタープラン等で役場中心拠点、ここが交通結節点でもあり、町の勢いというか、賑わい、或いは外から人を呼び込む核となるような場所になっている、中央公園も含めてこの比奈窪地区が町の中心ですので、町の活性化を考えた場合に、交通結節点ターミナル、或いは建物だけではなく、災害に強い広場、防災の観点からとしての安全性、こういったものも総合的に高まっていくという中で、比奈窪 56 拠点整備という計画、考えを示させていただいたものです。

それとこのご時世、生涯学習施設を建設していくにあたり、財源の手当も非常に大きな課題であります。生涯学習センターを建てるだけではなく国等の補助金交付を得るのが現実的でございまして、比奈窪 56 のような形で地域の安全安心に即した場所を整備していくことによって、防災安全交付金の活用が図られるということから、比奈窪 56 拠点という形で整備をさせていただきたいというものです。この地域の全体構想、プランを描いたものでございます。

(委員 A)

質問した委員としてもう一度重ねてしまう質問かもしれませんが、こういうものを出してくださいというお願いを

してクリアにしていきたい。皆さんの不安を取り除きたいという思いがあるので発言させていただきます。

比奈窪 56 プランを切り離して、先ほど委員長がおっしゃったように生涯学習センター単体に関わる委員会というところがありましたので切り離してもらえますか。ここについて補助金と一緒に必要である、ないしは一緒にないともえないという国の補助金、県の補助金、これの内容を示していただいて、なおかつ単体で作る場合のその補助金の限度、要するに限界を表にして委員に見せていただくことはできますでしょうか。

(委員長)

補助金についてはこのあと議論があるということで。

(事務局)

補助金の考え方については今委員長がおっしゃられたように、このあと資料 2 等を用いて説明をさせていただこうと考えています。比奈窪 56 プランについても第 1 回目の会議の際にブックを出している中で、第 3 章に比奈窪 56 プランを記載させていただいています。これについても第 1 回の会議で説明をさせていただいていますので、皆さんにご理解いただけているものと考えてございます。

(委員 A)

ありがとうございます。そこに載せたからといって各委員、特に私ですが、その部分がクリアになったかというとしてそうではなくて、その部分を再度質問、ないしはその明確化を図ってください。そこで限界があるのであれば、その補助金の限界を示してください。であればしょうがないという結論もあるかもしれません。そういったものの判断材料がないので困っているというのが実態です。よろしくお願いします。

(委員長)

これは後ほどまたやっていこうと思います。公共施設全般について質問があればいただきたいと思います。せっかくの機会です、担当課長もしっかり控えていますので、何かあれば遠慮なくいただきたいと思いますが、どうでしょうか。

(委員 B)

今日の議題の確認がまずあります。方策の検討についてですね、皆さんの意見を聞くということで、その中で今の発言を聞いていて、ちょっと論点が違うのではないかな。

私自身は共有化するために質問をしたいのですが、先ほど 22%縮減を削減目標とするという説明がありましたが、これは説明の中で、長寿命化する視点から 35 年を見据えた中で、この 22%が出てきたのか、それとも一般的にこの範囲の中で許容範囲として、こういった目標が立てられているのかをお聞きしたいです。

(総務課長)

この 22%縮減の数字につきましては、積算をさせていただいた中で長寿命化する、長寿命化しない方法で、38 年度までの数字を概算で出したところ、ある程度長寿命化することで経費の削減が見込まれる数字というものが出て参ります。あと長寿命化しないでそこで終わってしまうという施設の中にはございますので、そういったものを総合的に勘案しますと 22%程度の削減が目標として、ベストな数字というところで設定をした形です。

(委員長)

今回、こちらがメインの議論ではありませんが、公共施設全般につきましてせっかくの機会ですので、ご意見をいただければと思います。どうでしょうか、よろしいですか。

繰り返しますが公共施設全般につきましてはここでの議論ではありませんので、こちらは基本的には中井町生涯学習施設建設等につきまして議論をしていきますのでよろしくお願いいたします。

もし今後の意見交換中でも、例えば公共施設について知りたいと思った場合は、もちろん意見をいただければ、課長が控えていますので、メインではありませんがご答えいただける範囲内でご答えいただこうと思いますのでよろしくお願いします。

それでは、本日の議題の方に入っていきたいと思います。次第で言うところの、4 ですね議題ですと(1)になります。実現可能な方策の検討についてに移ります。こちらにつきまして事務局より説明をお願いいたします。

4. 議題

(1) 実現可能な方策の検討について

資料 1 に基づき今後想定される検討パターンについて説明。

- ・ 現行プランで再積算するパターン、現行の基本構想・計画の中で可能な範囲での規模縮小を行うパターン、基本構想・計画から抜本的に再検討するパターンの3つを提示した。
- ・ それぞれ整備期間、費用、費用見込み、財源見込み、課題検討事項の項目で比較を行った。

(委員長)

はい。ありがとうございます。こちらにつきまして、委員の皆様の方からご質問、或いはコメントがあればいただきたいと思います。どうぞでしょうか。お願いします。

(委員 C)

今日の議題が実現可能な方策の検討についてということで、このタイトルを見たときに大分前に進みそうになってきたという感じがいたしました。それで今事務局から説明のあったパターンも出していただきましたが、私も事前に今日は何を言おうか、こう言えいいのかということで、考えてきたことを発言させていただきます。

まず諮問のタイトルが、建設事業等のあるべき姿ということで始められた。そうしますと立ちどまる決断をされただけでも、すでに相当なコスト高となっています。3 回目の議題で今実現可能な方策の検討についてということで発言しやすくなりまして、現計画、実施設計の議論を出発点とされているということで、4 つあります。

1 番目は町の状況について、2 番目に計画の規模、3 番目に費用感、4 番目に事業プロセス等について議論をお願いしたいと書かれております。

このように進められているかと思いますが、私の考えで具体的に言いますと、まず今言った町の状況を将来的な姿で考えますと、人口減少に伴う税収が著しく減少する恐れが多分にあるかと思っています。それと高齢化社会ですね、社会保障費の増大です、医療費なども相当増えてくるかと思っています。

それと先ほどもテーマの中でありましたが、インフラ整備、社会資本が増大していく現況、上下水道の維持補修や道路整備費、教育施設の費用等、今後の課題で表せているかと思いますが、そういったことが懸念されます。

それと計画の規模はどうかを考察してみました。現在町の人口が 8,500 人の現状で、さらに減少するかと思っています。よほど社会情勢が変化しない限り、この減少はこれからも続いていってしまうと思います。

思えば建設費用について、当初示された内容が過大すぎるということで、1 月 2 月にあった懇談会の中でも身の丈に合った適正規模というのは多くの方から発言があったところです。私もこの辺は理解できました。

それと 3 番目に費用感、どのくらいのお金がかかるかということです。すでに 6、7 年度、この 2 ヶ年度で設計費も含めて約 2 億円がもう支出されております。

今後の建設費が、今のスタート時点では 32 億円、役場周辺エリアの整備費、先ほど意見が出ました 6 億円、合わせて現在では 38 億円の見込みとなっております。今後も資材費の高騰、著しい高値が続く情勢に加えて、中東情勢の影響も相当危機感が出ております。

それと建設することはできるとは思いますが、ランニングコストについて、建ってしまえば毎年かかることです。そういったことも考えていかなければいけないということで、私なりには事業プロセス手順で考えますと、大幅な見直しの提言をする必要があるかと思いました。実現可能な方策の検討として、従前計画、パターン 1、2、3 ということで説明をしていただきました。発言しやすくなったということで、資料から表されているかと思っています。この中で私はこのパターンがいいということはまだここでは発言できません。皆さんも、パターンがこれではどうかというような意見、多分に持っていられるかと思うので、とにかく費用はかなり削減して、かからないように考えていかなければならないと思っておりますので、私なりの意見を出しておきます。

(委員長)

はい。ありがとうございます。コメントということだと思います。他にどうでしょうか。

(委員 A)

いいですか。はい。再度すみません。発言させていただきます。この案、お作りいただいてご苦労さまです。ありがとうございます。このパターンですと、やはりこれまで立ちどまった理由で、町長がちよっと見直さないといけない、町民の意見と大分違う、意向と大分違うということを踏まえて見直して、これが立ち上がっていると理解し

ます。ではどうするかですが、このパターンを生かすことなしにこういうことは考えられませんか。

現行案 3,000 m²でいいですね。おおよそ 3,000 m²です。それを規模縮小案、1,500 m²から 2,500 m²。それから C 案として機能の再編築ですか、再編案と言ったほうがいいですか。今あちこちに 28 の町の施設、機能があるということですが、その再編を果たした上で、この規模を最終どうしたらいいかと考えたいです。最終 D 案としてゼロベース再検討はあってしかるべきかと思います。最終的には、私の意見、個人的な意見で申し訳ないですが、町全体の視点で議論を進めていかなければいけないところで、立ちどまるまで至ったわけですが、今回これで検討していますが、先ほど計画そのものの検討会ですと委員長おっしゃいましたが、残念ながら町全体の優先順位を明確にしない限り、個別施設の是非は判断できません。

もし、それでも作るということであれば今言ったような案で、今、約 3000 m²、これを半分にしたときに、事務局で作られたパターン 2 の一番右端にあります。今後効果をどこで何をしていくかを見極める検証が必要になります。これを町がやらないといけません私は思います。ということを提案して、できましたら規模縮小案、ないしはここに含めて他の機能をどう使っていくかという総合政策、こういったところを絡めて判断していかないとはいけません。それはこの案件だけについて検討しますという委員長のお話がありましたが、再度になりますけど、この検討会、幅広く各論を採用していただけますので、皆さんの意見を大いに町に提示して、今後の町議会での議論の材料になるようなものにしていきたいと私は考えます。

(委員長)

はい。他にどうでしょうか。いろんな議論があっていると思いますので、自由にご議論いただければと思います。どうぞ。

(委員 C)

先ほど私の発言の中でインフラ整備、社会資本、これに大分これから費用がかかるという発言をしました。が、今度の 9 月議会で水道料金が値上げされるということが考えられているようです。それで議決されれば来年の 4 月から執行ということになっているようですが、この時期に検討委員会が開かれているというときに、これはあまり出して欲しくはなかったなと思ったのですが、しかしわかりやすく出していただいたと思っています。

社会資本としてインフラ整備、水道料金を上げなければその整備が進まないということだと思います。皆さんにもこういう部分についても、やはりこれからうんとかかっていくという理解のもとに、この生涯学習センターのあり方、パターンがありますが、そういったことも十分参考材料にできると思いますので、いいときにこの上下水道の値上げのことが 9 月議会で諮られる、提案されると聞いていますので、そういったことも承知しておいていただければと思います。

(委員 D)

今、委員 C から水道料金の値上げというお話がありましたが、9 月議会に予定されていますのは下水道料金ということでご理解いただきたいと思います。9 月議会に上げるものについては、下水道を議会にもそういったスケジュール感でやらせていただきたいということでご説明をさせていただきます。

また、上水道につきましても現在検討させていただいているという状況でございますので、ご理解いただきたいと思います。

(委員 C)

わかりました。

(委員長)

はい。他にどうでしょうか。はい。お願いします。

(委員 E)

すみません。私たちが集められた最初の目的としては、この生涯学習施設をやめるかやめないか、ゼロベースにするかいろいろな可能性が多分あって、私は委員 A の町全体の施設を考えながら、次の施設を作ることにはとても賛成ですが、ここはシンプルにこの施設だけを考えて、今出ている材料で判断をして、委員 A が言われたことはとても大事なことだと思うので、次に建てる、建てないのときは必ずその施設に対して必要かどうかをする、私たちにはこういう委員会を作ってやってくださるという、そういうことを約束していただければいい

のかなと。

ただあと3回しかないので、いろいろなことを精査するには時間がないと思います。ですからシンプルにまず考えて、その先に委員Aのような方を入れたりした検討委員会、それは例えですが、そういうものをまた作っていただくということでもいいのではないかと。

6回ではなかなか深いところ、細かいところまで私たち話し合えないと思っているので、そういう形になっていけばいい。シンプルに私は、作るか作らないか、小さくするかしないかを、今の財源を見て、この財源でいくと交付金などが出るかどうか分からない状況で、もし作りますとなったときに、今度より一層、何かいろいろなものを、交付金をどうやってもらってきたらいいのかということになって、ひょっとしたら趣旨が違ような施設になってしまうかもしれないというのは思います。

ですから、今のこの資料の中で、あと3回の中で決められることを決めたほうがいいと思いました。

(委員長)

はい。ありがとうございます。基本的に私も委員Eと同じでして、先ほども話をしました附帯意見のところで、公共施設全般についてはあらためて議論をしていただきたいと書くしかないかと。時間も限られておりますので、まずは与えられたテーマで議論していくということです。まとめれば一番いいですが、まとまらない可能性もありますので、これも最初に言いましたが、まとまらなかったときはすべての論を併記するということになって、最後は町長にお願いするしかないと考えています。

附帯意見においては、公共施設全般、あと地域の魅力です。魅力は重要ですから、これから考える委員会を作っていただきたいと。それは個人ではと思っています。はい。他にはどうでしょうか。はい。お願いします。

(委員F)

このパターンを今見させてもらいましたけど、パターン1とパターン2とパターン3の工事費プラス1.6億円とか3.3億円というのは、現行の26.66億円で考えた場合、上昇分を加味すると1.6億円プラスになるということだと思います。例えばパターン2の規模を縮小するとした場合に、2,700㎡を例えば2,000㎡に、これは大体74%になりますが、そうすると単純計算で26.66億円は19億円ぐらいになると思います。19億円の6%の2年のプラスアルファを加味してもプラス3.6億円で、大体22億円ぐらいになると思います。この数字が、今この一番上のパターンでないとすごくお金がかかるという焦りを与えるものかと思って、そこは面積別のパターンも、縮小するのであれば幾ら縮小するとこれぐらいになるということがもう少しわかりやすいほうが検討しやすかったと思います。

今は2,000㎡で、私が単純に考えただけですけど、それでも2,000㎡だと19億円でプラス分が3.6億円なので22.23億円ぐらいですかね。この辺ははっきり数字が見えたほうがわかりやすい。

あと、この検討委員会は生涯学習施設の検討委員会ですが、木を見て森を見ず検討してくださいと言われても、木は綺麗なほうがいいじゃないですか。いくらでもお金をかけられると思いますが、やはり周りの森を見て、他の部分がどうなっているかはすごく大事なことだと思います。

学校のあり方検討会は3年間で12回の会議をすると決まっていますが、こっちは半年間で6回もやると優先順位がはっきり町民に示されたような状態でこっちを決めていく、そういう感じを私たちが取るのは仕方がないことで、学校は後でこっちを先に整えていこうというのが、はっきりわかったほうがいいのかと思います。

学校はこれから人数が少なくなって合併するかどうかは、今まだ踏み込めない時期です、小学校も今踏み込むと2クラスになるかもしれないし、本当に1クラスになったときに合併しますとか、そこには時間がかかるからまずはこっちの施設をきちんと整えて、皆さんの学習環境を整えていとか、もうちょっと踏み込んだ言葉が欲しいというのもあります。

あと予算について、要はいろいろ書いてあるけど税金じゃないですか。町の税金も含まれている中で、私がもと小学校で仕事をしていたときに生活科の担当で、生活科の予算を残していたら、ちゃんと使い切ってくださいと事務の人に言われました。初任のときに、何で使い切るのがわかりませんでした。とにかく使い切ってくださいと言われて、その年は使い切って、その翌年は言われる前に使い切れるように土とかの予算だったので、いい肥料を見に休日いろいろなホームセンターとかを周って見に行き、すごくいいものを用意しましたが、保護者の人からするとそんなもの要らない、もっと違うところにお金を使ってと言われてしまいました。

公務員と町民と予算の考え方にはすごく乖離があるということは、わかったほうがいいと思っています。予算とはいえ税金を使っている。その税金を大切に使うと多分考えていると思います。皆さんの税金だから大切に使うと思っていると思うのですが、私たちは大切に使わないです。大切だから使わないで置き換えられるの

であれば置き換える。

例えば、ここの生涯学習センターも、郷土資料館、その資料を展示するために面積が広がっていると思いますが、境コミュニティセンターと井ノ口公民館と分けて綺麗に展示できるようにしようとか、置き換えられるものはどんどん変えて、ホールは多分大きくあっていいと思います。これから成人式をやる、いろいろな講演会をやる、人を集めてやるというのであればホールを小さくする必要はないと思いますが、じゃあ他は何か置き換えられるのかを検討すべきなのかなと思います。

その検討をした結果、例えば 25%でも面積が減るのであれば単純計算で工事費も減と思うので、それでその施設でこういうことができるということが話し合えると思います。

生涯学習センターが今建て替えられても、私は改善センターがあろうが、新しい施設があろうが、あまり変わらないと思っています。改善センターはあまり使っていないくて、井ノ口公民館の図書室を使っているので、改善センターが変わっても何も使わないですが、でもその改善センターで、前回も少しお話しましたが、年に 1 回こういう人呼んで講演会をするとか、そういうことがあるから今中井町に必要な改善センターを立て替えているというようなゴールがはっきり見えてないので、そのゴール地点をはっきり見せて欲しいと思います。先 5 年間でこういう人呼ぶとはっきり言っていていいと思います。森安監督を呼んで話が聞けたら私の夫は今まで公共施設を使っていないですが、喜んでいくと思います。だからこういう施設がいい、こういうのがあっていいではなくて、こういうことをするというのが具体的にはっきりできればいいのかなと思います。

あと最後にもう 1 つわからないのがランニングコスト。去年のやつだとガラス張りでランニングコストが多くなるとかそういうところも議題というか、ちょっと待ってという意見のところでも出てきたと思いますが、今回ランニングコストについては特に何も出ていないので、この工事費の負債を返していくのはもちろん、それと同時に進行でかかってくるお金がどれくらいあるのかももう少し見えた方が、それでもあったほうがいいのであればあったほうがいいし、ちょっとこれではかけすぎだということであれば建物の規模を考え直すとか、本当に必要なものが何なのかを選択すべきかだと思います。

(委員長)

はい。ありがとうございます。事務局、もし可能であれば 3,000 m²を 2,500 m²にして整備した場合の手段も出ているといいと思いました。可能であればということです。

あとは維持管理コストも重要ですので、シミュレーションが細かくなってしまうますが、可能な範囲で作っていただくとうれしいという感じはします。他にどうでしょうか。どうぞ遠慮なくいただければと思います。

(委員 C)

今委員 F の意見を聞いていて気がついたのが、この生涯学習センター、現在の実施設設計に基づくもので続いています。ただ、示された設計図を見るとデラックス版です。すごくいい施設で、もう練られているなというわいがやサロンから集約してきたものですが、これを基にこれから面積を少なくしようと言っても、問題があるかと思います。ホールを作るのは当然いいと思いますが、ただ作り方の内容はデラックス版じゃなくて、実施設計に示されているのはデラックス版です。それでなくてスタンダード版でもいいかと思います。

例えば車で言えば、デラックス版であっても、スタンダード版であってもシャーシとかは全く変わらないわけです。ただ周りに何がついているとか、こういう設備がついているから高くなってしまうというような意味合いを考えれば、やはり私は作るならスタンダード版で、しっかりしたものを作っていけばこれほどの費用はかかってこなかったと思っています。これからの 1 つの考え方として、こういう内容もどうなのかと感じましたのでちょっと発言してみました。

(委員 F)

あともう 1 つ、他の場所の案、第 1 回目で聞いて、もともと比奈窪 56 のプランだからここでしか考えていないというお話だったと思いますが、この場所で押し通すという、言い方が違うかもしれませんが、この場所にしたいのであれば他の場所はきちんと考えておくべきだったと思います。

例えば、井ノ口小学校がもうなくなる、なくす予定で、そこに生涯学習センターを作るとしたら、どれくらい設計に時間がかかって、井ノ口小学校がなくなるということは合併が事前に行われなくてはいけないから、それによりのぐらいいの年数がかかる。だから、井ノ口小学校の案はよくないと、そういう消去法のためにも他の案というのは絶対に必要だと思います。私は未だにここじゃなくて井ノ口小学校を変えればいいじゃないかと思っています。こっちには中央公園があって、役場とかの周辺施設があって、井ノ口の方にはそういうものがないから井ノ

口小学校のところにバーンとあって、そこで広場を作ったら大きい広場が町で 2 つになって、井ノ口の人たちも行きやすいし、そういうふうに使っています。私はいまだに比奈窪プランのことを聞いても、ここじゃなくて井ノ口でいいとずっと使っています。

だからその思いを否定できる内容が欲しいのと、あと再度ですけど、防災の場にはなりますか。避難所にはなりますか。もし何かあったときに、ここの施設は避難所になり得るのか。重要なポイントだと思っていて、例えば大雨の時に周りが浸水区域、資料を前に出してくれたじゃないですか。この場所は平気でも周りが浸水していたらここに避難できないと思います。避難所としての効果がないなら他で補える収容の案が出ているとか、そういうものをしっかり見ないと。委員長からもしっかり木を見てと言われるかもしれませんが、森の部分が分からないとやっぱり GO しようとは言えない状態です。なので、他の場所も案としては欲しかったと思います。

(事務局)

指定避難所は従来通り学校体育館等になります。一時避難所という形で、もし大雨が降る、或いは地震があって帰れなくなったとか、そういった場合にホールや 2 階の部分を活用ということはありません。

この周りが雨だからそこに来られない、そう言われたら確かにそうですが、そういうものを事前にわかる段階で、より安全のために避難をするところでは、活用は考えられると思っています。

そこがこれまでの避難所が変わって避難場所になりますということではないです。あくまでそういった避難所的な機能、側面も有した中での施設というご認識をいただければいいと思います。

あと場所、もともと役場中心、比奈窪が二宮からの結節点、秦野から来るバスの結節点、福祉センター等いろいろな行政機能が集積しています。ある種、ここを中心により魅力が高まることによって、町全体に波及していくと考えています。この町の中心拠点をもう少し活性化していきたいと比奈窪を考えています。

先ほど中村にこういうのがあるから井ノ口というお話もあったかと思いますが、逆に小学校跡地という話になれば今の検討ではなくなりますし、まだまだ学校のあり方が見えていません、そうすると井ノ口小学校跡地だけの問題ではなくて井ノ口公民館と井ノ口小学校の跡地と、どういうふうに使っていくのかという考え方も当然出てくると思います。

町としては、ここをにぎわいの拠点として機能を高めていく、集積した中で高めていく、比奈窪という町役場中心の形で決めさせていただいた。かつてはその橋を渡った雑色地区も検討の中ではありました。ただ、やはりこちらにあった方がより望ましいだろうと、比奈窪にしているということですので、ご理解いただきたいと思います。

井ノ口地区については元々発想になかった。あと説明が足りないところは、今日いただいたものを庁内でしっかり固めましてまた次回でご回答を差し上げられればと思います。

(委員 F)

はい。その回答でいいと思いますが、それを数字とか、はっきり他の町民にわかるように出ている方がいいかと思います。その方が私も他の人にも話しやすいし、又聞きの話だと変に話が回ったら嫌なので、こう町の方では考えていて、候補には上がったけど、でもここがだめだったから無くなったかがはっきり見えれば、私もそこでいいですねと言えるので、今みたいなものがちゃんと出ていればいいと思います。

一応候補地はここだったとか、そういうものが出ている方が、ここを推しやすいというところですよ。

(委員長)

まだご発言されていない方々もいただきたいと思いますので、委員 G どうでしょうか。感想でも何でもいいです。

(委員 G)

私は、今まで生涯学習にかかる予算が余りにも他の自治体と比べて少ないような気がしたので、ここで思い切りそのまま当初の計画通り、やっていたらどうかと思っていたところですが、今日いろいろな人の意見を聞くと、もう少し考えなくてはいけないのかなど。それが本音です、でもやっぱりかけるところにはかけ、今まで我慢してきた部分をここで思い切ってお金をかけてもらいたいなど思っていたところですけども、すみません。ちょっとまとまったものでなくて申し訳ないです。

(委員長)

ありがとうございました。委員 H どうでしょうか。

(委員 H)

社協においても早期の実現というのは、事業の幅も当然広がってくるので大変期待しているところですが、かたや私自治会長という立場にもなっておりまして、地域自治会の人からはあまりいい声が聞こえてこないというのが現状です。特に井ノ口地区の方については、それほど積極的に建てて欲しいとか、場合によっては予算をかけ過ぎだという意見を聞くのが実情です。

その中で、今後建築にあたって 3 パターンを示していただきましたが、ちょっと選択肢が少ないのかなという、感想です。これではさっき言われたように、パターン 1 の方を推すようなイメージにとらえられるのかなという感じがします。どうしても将来的に、向こう 30 年 40 年を考えた中で、当然社会情勢が変化していきます。少子高齢化も進んでいきます。人口も 4,000 人、5,000 人という積算もしている中で、どんな施設が望ましいのか、もっと長い視点で見えていかなくてはいけない点かなと思います。その中で、やはり前から出ているように、身の丈に合った施設で、他の施設で、公共施設の管理計画も含めて機能を持たせる、維持管理も含めて、ここに本当に必要なものはどういうものなのか、そこに予算のことも考えながら、町民の理解を得て進めていく必要があるのではないかと考えております。

(委員長)

はい、ありがとうございました。続いて委員 I お願いします。

(委員 I)

はい。今回いろいろな意見が出ているわけですが、私は現行プランで推しているのではないかと思います。

パターン 1 から 3 までありますが、遅れていけばいくほど経費がかかってしまう。今日来る前に考えてきたのですが、生涯学習施設建設に伴う建屋の規模についてお尋ねします、という形で考えたのですが、現在の計画では建屋の面積が 2,746 m² という数字になっています。この数値は平成 27 年度の生涯学習施設建設基本計画、並びに 28 年度の生涯学習基本構想を基に設計されたものと、今から 10 年前に計画されたものの数値を現在当てはめているわけで、その当時の人口から言いますと、先ほど委員 C もおっしゃったように、人口減少になっておりまして、1,000 人減っています。今後の推計でいっても毎年 100 人ずつ減ってきてしまう。これはもう事実です。かといって、一番私が思うのは、どの程度の規模が妥当なのかというのは一番難しい論点でありまして、どのくらいの大きさが妥当なのかと。

ちょっと話は違うのですが、先般、開成町の社会福祉会館というところで催し物があってお邪魔したのですが、そのホール、私もこういう検討委員会に関わっていますので、固定式の椅子を勘定してみました。概ね 300 席かなと思ったのです。ホームページで確認したところ全部で 461 席という規模でした。

1 つ言いたいのは、我々数字上、資料上でいろいろ考えていますが、近隣の施設を見学させていただいて、この程度の面積で、中井で 261 席はこのくらいであるとか、外観上の問題とか何かというより、そのものを実際に見て、それで検討された方が実感として沸くのではないかと思います。

先ほど比奈窪 56 プランというのが出ました。これは補助金の獲得にやりやすい、取りやすいからそういう計画を取り込んだと私は解釈しているのですが、この物事の進め方、議会での進め方、56 プランはプランとしては結構ですが、町行政としてその辺の進め方がどうなっているのか、その辺が私は今回の生涯学習センターに絡んで、一番引っかかるところです。事務方でそういうプランを進めていいのかなという。ただ私は最終的にはこの比奈窪 56 プラン、生涯学習センターと一体で物考えた方が、整合性が取れて一番よろしいのではなからうか。

(委員長)

はい。ありがとうございました。もし、これも可能ならばですけども、議会の議事録ありますよね。そこはちょっと注意してどんな意見、議論があったか出してもいいかなという気はします。多分残っているはずですので、この 56 プランに関して議会がどういう回答をしているのか、聞いているのかもあっていいかなとは思いました。続いて、委員 B どうでしょうか。感想でも質問でも。

(委員 B)

皆さんの意見を聞きながら、こういう面からこういう視点から物事を考えるということの大切さと言いますか、改めて鑑みながら 1 つ思うことは、やはり平成何年か、10 何年でしたか、そこから立ち上げた部分で、今ここに来て物価高と人口減に対しての社会変動が余りに大きい中で、行政というものに対して、皆さんが上から下に向かって物事を言っているという部分がありながら、その中で我々が生きてきた中で、町民として我々がやるべきことがなかったのか、考えるべきことがなかったのかという視点に立ってみた時に、やはり 1 枚のお皿の中に町民と行政の方たちがみんな乗って、考えて、共有しながら 1 つの案を出していくということが、1 番皆さんにとっては納得じゃないですけど、ベストではないけどベターに近いのではないかなと思います。

そういった中で、これは多分また反発があるかと思いますが、皆さんから出た一人一人の意見をトータルのに予算化するときに業者の方が一番現状というものを知っている立場だと思いますので、そこで学識経験者を入れながら、再度その規模が縮小すれば、皆さんが 1 つのお皿に乗る可能性があるのか、そういったものを模索しながら、また逆にまた方向性を出していただければ、皆さんもより近いものとして、皆さんもお皿の上に乗って今考えましようといった考えになるかなと思いました。

(委員長)

はい。ありがとうございました。続いて、委員 J お願いいたします。

(委員 J)

私は中井町に住んで良かったなという町にしたいわけですよ。将来の子ども達や孫達に中井町っていいねって言っていただけるような町を今の私たちは作っていきなさいいけないかと。それで、ここで出ている縮小化とか延期論というのは、子供たちに果たして夢を与えているのだろうか、私は豪華過ぎないと思うので、もっともっと豪華なものを建てていいじゃないかと思う。

文団連の関係で近隣の市町にお邪魔することが多いですが、どの町も素晴らしい施設を持っています。はっきり言って中井町は恥ずかしいですよ。例えば文化祭の時に改善センターで踊りを踊ってもらう。舞台は普段は立ててあって、使うときだけ降ろすわけですね。その舞台が軋む、踊っていると真ん中で 2 つに分かれているのですが、躓きます。我々は高齢化していますので、非常に段差が危険です。それで果たして子供たちに、中井町はいい町でしょうと言えるのかどうか。我々の誇りはどこに行っただろう。小さく希望したら、使い勝手が悪いです、はっきり言って。バスケットボールはできないとか。会議、ホールは何人で打ち切りです。それまでしか入れません。

そういう施設でいいのでしょうか。私たちが子ども達や孫達に、あれは私達が考えて作ったと胸を張れるのだろうかと思うと、本当に中井町を良くしたいのだろうか。だから、時間と、金額の問題が出ていたけど、時間を延ばすと、どんどんお金がかかります。お金がどんどん上がっていくのはわかっている。規模を縮小したって上がって行きますよね。もう 1 回最初から考え直せばいいじゃないか、最初から考え直したらもっとかかります。そんな単純なことです。だから我々はもっと子ども達のことで考えて施設をつくらないとお金だけでみんな生きているのですか、そうじゃないと思います。幸せを、夢を与える町でありたいなと思っております。

(委員長)

はい。ありがとうございました。続いて、委員 K お願いいたします。

(委員 K)

検討委員会に初めて参加させていただきました。用があって 2 回ほど出られなかったです。町民は身の丈にあったものを作れというのが大体の意見だと思います。特に井ノ口側はどうでもいいと言っています、こっちに来ることがないから。中村側は関心があって、身の丈に作れと言っております。私も一部それには賛成です。ただ、業界の人間で建設業界にいますので、こういう施設はあったほうがいいと思いますが、このパターンは全部上がっていくパターンですよ。これ非常におかしいと思って、これ設計士何人に見せていますかと言いたくなっちゃいます。建設会社誰に見せていますか。簡単に 2 割 3 割はカットできるはずだって、業者が違えばというのが我々民間の感覚ですよ。我々が 100% 作ったら絶対 80、70 で作る業者がいますよ。じゃあ手を抜くのかと言ったら、設計士がいて抜けないですよ。正直な話、そういうことで削減していくのがベストかなとは思います。どうしても建設業にいますので、と思います。ただ身の丈に合ったものを作るのをどう縮小するのか、建設費を安くまけてもらうのかということもできると思うので。検討の方よろしくをお願いします。

(委員長)

はい。ありがとうございます。今後検討する場合は委員 K にも入って、関わってもらってシミュレーションしたほうがいい、プロがいますので、知りませんでしたので、関わってもいいと思いました。あとまだご発言してない方もいらっしゃると思いますので委員 L どうでしょうか、感想でも質問でも構いません。

(委員 L)

個人的な気持ちで言うと、生涯学習施設の建設と学校の統廃合は何で近い時期になったのかというのが正直なところだと思います。学校の統廃合については教育長の立場ですので今進めているところですが、できるだけ早くという声もあります。

去年もいろいろ視察に行かせていただいて、やはり焦ってやるとよくないというのは、どこの市町村にも言われていて、いろんな会議等を開いて、皆さんの声を聞いて熟成させて、単なる統廃合ではなくてそれが最終的にはまちづくりに繋がっていくという、そういう意識でやっていかないと失敗すると言われてしています。

先ほど委員 F の方から 3 年で 12 回という話がありましたが、どんなに急いでもそのくらいかかるかなと私は感じていて、今その 1 年目でやっと半年が過ぎていないですが、少しずつ土台を固めているところで、それと併せてこちらの生涯学習施設の検討となるとかなり、順番がどうかと言われてしまうと、なかなか難しいというのは、判断的にちょっと難しいという思いです。なおさら今、経済情勢、物価高騰、ホルムズ海峡の問題とかがいろいろあって不安定な状況の中で、お金の計算をしだすとキリがないので、学校もいろんな自治体で統廃合を考えていて、計画の段階では 30 億だったところが、今 80 億でも建たないというような自治体もあると聞いていますので、そういったことを踏まえると、どうしたものかなというところだと思います。

いずれにせよいろいろな人の意見を聞いた中で、何がベストなのか、中井町にとって何が子ども達の幸せなのかを、いろいろ議論を交わした中で判断していくしかないのかなと思っています。

(委員長)

ありがとうございました。続いて、委員 D どうでしょうか。

(委員 D)

皆様からいろいろご意見をいただきました。それぞれもっともなご意見というところもございます。今回の立ちどまる経緯に至った今後の課題としては、立ちどまったことによる財政的な面と、それから 1 つは学校との優先性というのを地区懇談会で言われてきたというのはもちろん承知しております。それらがある意味で一番大きな原因だったのかなと。その後、説明のわかりやすさというのもあったかと思えます。

それをもちまして今回こういった検討委員会を開いて、皆様にいろいろご意見をいただく場を設定させていただきました。もちろん公共施設全体について、ご意見をいただく場ではもちろんございません。ただ、先ほど最初に公共施設総合管理計画の裏面で全体が約 3 万 3,000 平米ぐらいの公共施設全体があって、そのうちの約 2 万ですね 3 分の 2 は学校の面積が当たるわけです。それを今後どうしていこうかというところをこの 3 年間をかけて今検討を進めているところです。

それにちょうど今、この現行で今年度から生涯学習センターを実施するにあたっては、そういったものが控えている中でこのタイミングだということで、規模的なこともいろいろご意見いただきましたけど、基本構想、実施設計等をもとに、ここのホールだとか、図書館図書室だとか、そういったものが必要だという認識のもとで、こういった積み重ねを持ってこの面積にしてきたと認識しております。

例えば半分にしたらどうかというご意見もありました。単純に半分にしたら、それでは機能的なものがどうなるとか、本当に必要なものがそれで賄えるかということもやっぱり考えていかなくてはいけないと思います。仮に半分ということであれば、私は基本的に設計のし直しが必要になってくると、個人的にはそういう印象を持っております。

今学校も後ろに控えている中で、今回この場合は学校のあり方について検討する場ではございませんが、そういうものも控えていることを認識しながら、先ほど委員 E が言っていただきましたような方向性で進めたら、一番いいのかなという感じはします。皆さんから多種多様なご意見をいただいておりますが、この学校、生涯学習センターについてはこういう形で、いろいろご意見を集約できればそれはベストかもしれませんが、そういった附帯意見というのをございました、そういった中で、何かしらの形を出させていただいて、それを受けて町がしっかりそれらについて今後、進め方について考えていくような方向で会議を進めていただければありがたいと感じております。

(委員長)

はい。ありがとうございました。委員 M、どうでしょうか。

(委員 M)

はい、私は学校関係者なので、学校のあり方の検討にも関わらせていただいているところで、言ってみれば、その学校のあり方とこの生涯学習施設のあり方が、私なんか混同して、一緒に建てればいいと最初は思っていたのですが、もうこのスケジュールの話でいうと全く別ですね。ということで、今日改めて皆さんのお話聞いても学校のあり方は本当に委員 L が先ほどおっしゃっていたみたいに慎重に、時間をかけてきちんとやっていくということと、生涯学習施設はもうかなりの部分来ているということを別個に考えるべきだということをお話聞いて改めて認識しました。はい。ありがとうございます。

(委員長)

副委員長お願いします。

(副委員長)

皆さんが中井町を何とか良いものにしていこうという思いがあるのは、非常に感じました。やっぱり愛着を持っていろいろなことで考えていただけていると。

いろいろな要因がありますので、まずはお金の問題とか人口、今後の動き、そういったところを今データで出していただいてそれに対してご意見をいただいた。

そういう意味では比奈窪 56 もありますし、都市計画的にもいろいろな流れもありますし、先ほど言った学校のあり方とか生涯学習施設とか、やっぱり個別に考えればそれぞれ優先度もあるので、そういったところも含めてですね。

とにかくまずはいろいろな資料を出していただいて、それで議論をしていかなければいけないという意向が、それぞれ意見の違いもありますし、そういったものをいろいろ払拭しながら、そこである程度まとまればまとまる、まとまらなければ、先ほど委員長が言ったようにそれぞれの附帯意見で出す。期間も決まっていますので、以前もいろいろ説明をいただいているのですが、やっぱり理解ができていないところもありますので、ぜひその辺りは我々も資料を見返しながら、特に事務局にも質問をし、とにかく我々として理解をしながら、皆さん方で何となくこういう方向なのか、ぜひ考えていただければと思っております。

先ほどもありましたように今日のパターンは確かにある方向性を持つていくことにより見え過ぎました、多分いろいろと言われていると思います。そうではない部分も含めて、さっき言ったこの面積も相当議論して決めた面積だと思いますので、そのあたりも逆にこれだけ必要だということを説明いただくのもあるかなと思いますので、そういった計画ありきとかありますが、その必要性も含めて、議会でも話したとか、そういうものをどんどん出しながら、皆さん方で現状がこうだったということを理解するのが、必要じゃないかと今日は思っていました。ありがとうございます。

(委員長)

委員 N、一言いただければと思います。

(委員 N)

はい。ありがとうございます。私は平成 18 年、19 年から検討委員会のメンバーになりました。そして紆余曲折を経て現在に至っているわけですが、ここに示された一番上の現プラン、この中にはその 20 年間のいろいろな集約が入っていると思います。

それでこれを否定されるということは、20 年間何をしていたのかという話にもなるので、私はどちらかというと積極的にやるべきだと思っております。

元々この計画はバブル期に建てられた公共施設がここで一気に耐用年数を迎える、そして一気に建設が市場で始まる。それで償還の平準化を図る意味で長寿命化計画とか、いろいろな計画が作られたと思います。それが頓挫してしまうと、長寿命化計画が順々に先送りになって、平準化どころではなくなってきます。

そして私は同時に、先ほど委員 J が言われた子供に夢を持たせるようないい施設をつくらなかったら、何こんなの作ったのとか、結局後で笑われ者になると思います。そしてもちろん今少子化高齢化で地方が衰退している現状です。そんな中で魅力ある建物、何か突拍子もないような魅力のあるものを町で作らなかったら、交流人

口も増えないし、移住も増えない。人口は減るばかり。何の意味もなくなってしまう。

私は四半世紀ぶりの公共施設の建設ということで、ものすごく期待しています。それはなぜかという、今までどちらかというと目立たない町で中央公園がメインだったと思います。その中で人口減少の反転攻勢を願っているし、或いはこれを地方創生というか、まちの活性化の起爆剤、こういうものを利用して、発展する町を目指さないと、夢を語らなくては誰だって、本当に住むのが嫌になっちゃいますよ。だから、1億少なく作ればいいとか、面積をちょっと減らせば得とか、そういう1億2億の話じゃなくて、もっともっと多少無理してでもいいものを作って、マスコミが飛びつくような町にしていきたい。それはもう私の願いです。以上です。

それと同時に、昨日熊本で地震が起きて、やはり避難生活になると避難場所の確保は、面積の確保は、平時では無駄に思うかもしれないが、いざとなったときには、やはり広さはある程度必要だということを、昨日の地震を見てつくづく思ったところです。

(委員 K)

すみません、建設業界にいますので一言だけ。

この中に物価上昇分6%と書いてありますよね、建設物価というものがあります。来年はこんな金額じゃなくてドカンと上がります。3月、4月1日から6%なんて問題ではないです。その3倍近く上がります。そう思って検討したほうがいいのかなと思います。我々は生コン業界ですが、来年20%近く値段が上がります。それは建設業界にすぐ響きますので、一応そういうことだけご報告申し上げます。

(委員長)

はい。ありがとうございました。それも踏まえながら、情報をいただきながら検討していただきたいと思います。

次回も引き続き議論をしていきたいと思いますので、本日はこちらで終了にしたいなと思っています。

個人的な意見ですが、1番というものを作っていただきたい、神奈川県で1番とか、1番があった方がイメージになるわけです。例えば日本で1番高い山は皆さんわかりますよね。日本で一番高い山富士山です。2番目はわかりますか。そう北岳ですよ。まだ出てきませんね。日本で一番大きな湖はどこかと言うと出てきます、琵琶湖です。2番目はわかりますか。霞ヶ浦ですね、出てこないですよ。1番というのはやはりポイントで、これは魅力に繋がっていきますので、この1番というものを、規模が小さくなくても目指していただきたいと個人的に思います。

引き続き次回もしっかり議論していきたいと思います。時間もきていますので、(2)その他に入っていきたいと思います。その他につきまして事務局からお願いいたします。

(事務局)

その他につきまして、次回の第4回目の検討委員会の連絡となります。

次回の検討委員会につきましては、今日と同じこの場所で8月7日金曜日14時からを予定してございます。

本日いただいた意見を踏まえまして、引き続き一定の方向性を導き出していきたいと考えております。

次回第4回目の協議につきましては、当検討委員会の答申の素案づくりに移行していく所存でございますので、よろしくお願いいたします。開催通知を本日配付させていただいておりますが、都合により欠席される場合は、8月3日月曜日までに事務局にご連絡いただきますようお願いいたします。事務局からは以上となります。

(委員長)

はい。ありがとうございました。以上をもちましてすべての議題は終了いたしました。

毎回この委員会では最後に副委員長から一言いただくのですが、さっき話がありましたので、よろしいですか。はい。先ほどの話が最後の一言になりますのでよろしくお願いいたします。

時間にもなりますので、以上をもちまして令和8年度第3回中井町生涯学習施設建設等検討委員会を終了いたします。次回もよろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。